

令和3年度 小平市立鈴木小学校 学校評価報告書

学校教育目標 人権尊重を基盤に生きる力を育み、健康で人間性豊かな児童の育成を目指す。目標とする児童像を「よく考え やさしく 元気な 鈴木の子」とする。
 ○よく考える子・・・基礎・基本の習得とそれを活用する力を身に付け、自分の考えをもち、判断し、行動できる子ども ○やさしい子・・・自他の生命を尊重し、共に生きる豊かな心をもつ子ども ○元気な子・・・心身ともに健康で、粘り強くやりぬく子ども

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 ○人権尊重の精神を基盤とし、集団や社会との関わりを通して、すべての人が成長できる学校ー子ども同士、子どもと教師、教師同士、学校・保護者・地域の好ましい人間関係の構築ー
- 【目指す児童・生徒像】 ○子ども同士が認め合い、共に喜び、何にでも挑戦する意欲がある児童
- 【目指す教員像】 ○自己の使命と責任を自覚して学校を開き、教師同士が学び合い、協力し合って職務に励み、子どもと共に成長する教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

○小規模校のよさをいかし、児童へのきめ細かい指導や特別支援教育の視点を生かした教育環境を整備し、学力・体力ともに少しずつ向上している。また、保護者に協力をお願いしながら教育活動を展開できた。新副校長、主幹2名を中心に業務改善を行い、教職員の心身の健康も保持しながら、組織的に教職員の資質を向上を図る。その上で、児童の自己肯定感を高め、意欲的に行動できる児童を育成する。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	●計画的に鈴木タイムとベシーグタイムの実施により、確実な知識の定着を行う。 ●鈴木小学習ルールを確実にに行い、定着させる。 ●10分×学年の家庭学習を保護者にも働きかけ、定着させる。	2	3	●鈴木タイムの取組については、8割以上の保護者、9割の児童が肯定的な回答をした。学力の定着へつなげない。 ●学習ルールは9割以上の児童が守っているが、9割の学習意欲を向上させる必要がある。 ●家庭学習の定着については、7割以上の保護者、約8割の児童が肯定的な回答をした。今後も担任から働きかける。 ●コロナ禍の影響もあり、教員の基礎知識定着への取組指標は2割に留まり、今後の課題である。	3	4	●学習ルールをよく守り、家庭学習もかなり定着している。鈴木タイムの効果について9割の肯定的回答や、コロナ禍でも学習意欲が下がらないでいるのは、先生方の大変なご尽力のおかげだと思います。	●鈴木タイムの学習については保護者、児童共に約9割が肯定的であり、単元終了時テストの平均正答率は8割以上に達した。 ●学習ルールへの意識は9割以上と高く、落ち着いた学習が取り組んでいる。 ●家庭学習には個人差が見られる。教室掲示や学級だより等で多様な学習を提示し、家庭学習の工夫につなげさせていく。
	●自分の考えを発表し、学び合いの場面を日常的に取り入れた授業を行う。 ●読書活動の充実として語彙力を高め、正しい言葉遣いで話し合う力を高める。	4	4	●コロナ対策で、メッセージボードでの意見交換やノートの見せ合い、ICT機器の活用等で自分の考えを伝える活動を取り入れている(教員9割以上、児童約9割達成)。 ●読書については、教員8割以上、児童9割以上が肯定的な回答であった。引き続き、担任から読書の意味づけもしていく。	4	4	●児童が自ら取り組む動機づけにより、学習意欲の向上に期待しています。 ●メッセージボードやICT機器の活用によってコロナ前とは異なった学び合いができています。それらを活用した授業を実際に見てみたいですね。	●授業中に学び合いを取り入れることは教員の9割以上が達成した。また、児童の8割以上が学び合いを楽しいと回答している。自分の考えを最後まで発表している児童は約8割であった。自信をつけさせ、さらに伸ばしたい。 ●読書活動の教育効果は保護者、児童共に9割以上と高く評価している。今後も読書活動を推進しながら、話し合う力を高めていく。
	●多様な考えを発表できる場を生かした、学び合いや深め合う授業を実践する。 ●外部の研究会や公開授業に積極的に参加し、校内に還元する。	2	3	●コロナ対策で、メッセージボードでの意見交換やノートの見せ合い、ICT機器の活用等で学び合いを取り入れている(教員9割以上、児童約9割達成)。 ●コロナの影響もあり、研究会や公開授業には予定通りの参加はできていない(5割達成)。リモートが中心である。児童の外部講師への期待は約8割が肯定的な回答であった。コロナの感染状況を見ながら進めていく。	3	4	●人のよいところを見つけさせている教員100%達成は嬉しいですね。児童への先生方のあたたかい目が本当にありがたいです。保護者にも、何かあれば先生に話す、という強い意志が生まれていることでしょう。	●授業中学び合いの場面を多く設定することで学び合うことの楽しさを味わっている児童は8割以上であった。学習者用端末による学習も導入されることで多様な学び合いが実現可能となった。 ●外部講師とのオンライン授業を実施する等、コロナ禍であっても専門性の高い授業を実践することができ、8割の児童が楽しみにしている。
健全育成	●自分から先にあいさつすることや場に合ったあいさつをすることの学習を行う。 ●いいねさんカードの取組を推進し、人権感覚を高める学習を実践する。	4	4	●あいさつについては、教員が約8割、児童が約9割、肯定的な回答をしている。しかし、自分から先にあいさつすることは課題である。朝のあいさつ運動で意識を高める。 ●人のよい所を見つけているのは、すべての教員が達成。継続する。代表委員会発案の「いいねさんカード」の取組が進んでいる。児童9割以上の児童が友達の良いところを見つけていると回答した。本校の学校経営方針の中心でもある。さらに高めるよう取組を継続する。	4	4	●基本的に私たちのような地域の人にもあいさつしてくれるが、こちらが先にあいさつをしないと、なかなか子どもの方からはしてくれないです。コロナのため、大きな声を出せずに、あいさつが聞こえない時もあるのは残念です(課題)。	●全校で力を入れてきたあいさつは、すべての教員、児童約9割が肯定的な回答をしている。自分から先にあいさつすることはまだ個人差が大きい。次年度は、児童発案の取組で改善を図る。 ●全校で自己肯定感を高める取組も力を入れてきた。代表委員会のいいねさんカード、各学級の朝の会でのいいねさんの発表により、教員9割、児童9割以上が肯定的な評価をしている。大きな成果である。次年度は、普段かかわりの少ない友達とも積極的に関わることに力を入れる。
	●学期1回以上の規則の尊重や道徳の授業や生活指導等による規範意識を高める学習を実施する。 ●いじめに関する授業を年間3回全学級で実施する。	4	3	●学期1回以上、いじめ防止授業や朝会での話を実施できている。規則尊重や規範意識については、9割以上の児童が肯定的な回答をした。意識は高いので、行動に移せるよう指導する。 ●SC等、関係諸機関と連携しながら、いじめ見逃しゼロ、未解決ゼロを引き続き目指す。コロナ禍で不安を抱えている児童や友達関係で困っている児童は複数あるものの、週1回の生活指導夕会と校内委員会を軸に交流続ける。	4	4	●互いを思いやる心を育てるのに、たてわり班活動はとて素晴らしいと思います。放課後に学年を超えて声をかけ合ったり、仲良くしたりしている姿を見かけるとホッとします。	●いじめ防止授業や朝会での話は予定通りすべて実施。規範意識は9割以上の児童が肯定的な回答。次年度も、学級力向上プロジェクトや児童発案の取組で、自分たちで規範意識を高めていく。 ●いじめ防止のアンケートも予定通りすべて実施。週1回でのいじめ防止の情報交換を継続し、気を配ることなく、いじめ見逃しゼロ、未解決ゼロを継続する。児童が誰にでも相談できる体制も継続する。困っている児童に誰かが気付き、寄り添い、全員が安心して笑顔になれることを目指す。
	●たてわり班活動や係活動等を通して主体的に考えて実践する力を育成する。	4	4	●たてわり班活動は、13～14人の少人数で実施できた。コロナ対策をしながら継続する。交流活動については、教員約9割、児童9割以上の児童が肯定的な回答をしており、取組への意識が高い。児童発案の取組も、全学級で実現できている。	4	4	●コロナ禍における体力の低下に伴い、けがや事故の増加につながるまいか心配です。 ●ホームページで子どもたちの日々の成長をお知らせいただき、何もできませんが、見守りをさせていただけるのは幸いです。 ●コロナのため、保護者が学校にくる機会が減り、ボランティアが集まらなくなっています。通常の学校生活に戻った時、どのようにしてボランティアの人を集めるかが難しいです。	●コロナ発案の取組も取り入れ、コロナ対策をしながら、休み時間に体を動かすよう促した。約9割の教員が声かけをすることで、児童は7割以上が外遊びを楽しんでいる。高学年になるに従い差が大きくなる。次年度も、コロナの状況を見ながら、児童発案のクラスあそびや学年での取組も増やしていく。 ●コロナ対策をしながら、なわとび旬間は実施。マラソン旬間は中止。コロナ対策版ドッジボールのルールを6年生が発案したことは成果である。
体力向上	●休み時間以外遊びを奨励し、日常的に体を動かす。 ●なわとび旬間、マラソン旬間に継続的に取組む。 ●体育科の授業の充実と体育集会の実施により、多様な運動を通して運動するよさを実感させる。	3	3	●休み時間の教師の声かけは約8割が達成。外で遊ぶ児童は約8割達成。学年によって差があるので、継続的に働きかける。 ●なわとび旬間は予定通り実施できた。コロナの状況を見ながら、可能なことから実施していく。 ●体育集会は学期1回、実施できた。ワークショップは計画中である。コロナの状況を見ながら実施する予定である。	3	3	●スポーツのよさを運動に親しむことについては、9割以上の保護者、約9割の児童が肯定的な回答をした。学年が上がるにつれ、個人差が大きくなる。児童発案の取組を促し、児童に主体的に考えさせる。 ●オリンピック・パラリンピックの理念を大切にしている授業は、あおぞら福祉センターと連携して、ポッチャ体験を実施できた。次年度以降も継続する。	●児童発案の取組も取り入れ、コロナ対策をしながら、休み時間に体を動かすよう促した。約9割の教員が声かけをすることで、児童は7割以上が外遊びを楽しんでいる。高学年になるに従い差が大きくなる。次年度も、コロナの状況を見ながら、児童発案のクラスあそびや学年での取組も増やしていく。 ●コロナ対策をしながら、なわとび旬間は実施。マラソン旬間は中止。コロナ対策版ドッジボールのルールを6年生が発案したことは成果である。
	●歴史や意義を学習し、運動に親しむ態度を育成する。 ●オリ・パラ教育の理念に触れ、スポーツのよさと自他を尊重する人権感覚を養う。	3	3	●運動に親しむことについては、8割以上の保護者、9割の児童が肯定的な回答をした。教員も8割以上が達成。 ●オリンピック・パラリンピック教育の理念を大切に、授業の中で継続的に指導していく。	3	3	●スロウな学校に足を運べる日が一日も早く来ることを願うばかりです。 ●先生方、毎日本当にお疲れ様です。	●スロウな学校に足を運べる日が一日も早く来ることを願うばかりです。 ●先生方、毎日本当にお疲れ様です。
郷土愛の	●各学年・専科等の学習の様子を毎月ホームページで紹介する。 ●地域人材や関係機関と連携した学習を全学年において実施する。	4	3	●学校公開ができないため、ホームページを毎日更新し、学校の様子を伝えている。9割以上の保護者、約6割の児童が肯定的な回答をした。児童にもホームページの魅力を紹介し、児童の閲覧割合も増やすことが課題である。 ●コロナの影響のため、地域人材は活用できていない。状況を見て実施する。	4	4	●遠慮なく学校に足を運べる日が一日も早く来ることを願うばかりです。	●コロナ禍で学校公開がほとんどできなかったため、ホームページには特に力を入れ、ほぼ毎日更新できた。9割以上の保護者が肯定的な回答をした。この2年間で大きく伸び、成果である。児童は約6割であった。児童にもホームページの魅力を紹介し、自分たちの活躍を見ることが、自尊感情をさらに高めることが課題。 ●コロナの様子を見ながら、地域と連携することは次年度の課題。コミュニティ・スクールを目指しながら、連携を深めていく。
	(業務改善)	●会議の効率化、行事の精選をすすめる。	3	3	●教務主任が1学期末に改善できることをアンケートで募り、項目ごとに分類し、9月から実現できることから改善した。 ●時間を守ることに始めている。学年会と選の指導計画の充実で、効率化を図る。 ●運動会は2学年ずつの午前開催。保護者は各学年の入れ替え制。音楽発表会は、児童はオンラインで鑑賞。保護者は各学年入れ替え制で実施した。	3	3	●GIGAスクール構想の実施を受け、全学級で授業中に学習者用端末を活用できるようになった。学級閉鎖中のオンライン朝の会と帰りの会、オンライン保護者会も実施できた。9割の保護者、9割以上の児童が肯定的な回答をした。研修を積んでいく。